



大阪市立大学 アイ・スポット公開講座

受講無料

大阪市立大学は都市・大阪を学問創造の場とする総合大学です。都市が創った大学として、大学の「知」を広く市民のみなさんへ公開します。今回の「大阪市立大学アイ・スポット公開講座」のテーマは、大坂時代の町、震災・都市防災関連のテーマとなっています。講師の教授陣と聴講者の距離の近さも魅力の1つです。ぜひお気軽にご参加ください！

12. 2 (金)

仁木 宏
大阪市立大学大学院 文学研究科・教授

★ 秀吉以前の大坂

—「石山」本願寺・寺内町の実像—

羽柴(豊臣)秀吉が上町台地の先端部に大坂城を築く以前、そこには大坂(石山)本願寺と寺内町がありました。寺内町とは、寺の周りに信者、商工業者などが集住した自治都市です。しかし、大阪(大坂)の地名の由来となった、寺内町の実像は、案外知られていません。本講座では、寺内町のかたち、法制、住民、交通アクセス、周辺地域との関係など、都市としての寺内町がどこまで明らかにできるのか、紹介していきます。

12. 16 (金)

重松 孝昌
大阪市立大学大学院 工学研究科・教授

★ 巨大津波、その被害と対策の模索

水の都と謳われてきた大阪。張り巡らされた水路網やそこに架けられた橋は、商都大阪の象徴のひとつです。しかし、大阪の歴史は水害との戦いの歴史でもありました。人々と水辺との関わりや水害の歴史を振り返るとともに、東日本大震災による沿岸域の被害実態を脳裏に焼き付けたいうえで、その対策を模索します。

12. 19 (月)

平澤 栄次
大阪市立大学大学院 理学研究科・教授

★ 放射能セシウムによる内部被曝

～ 今後どのような食品から検出されるのか ～

新聞で報道されているシーベルトやベクレルをどうよめばいいのか、放射能を含んだ野菜やコメなどを子供が摂取した場合、どの程度なら容認できるのか、なぜ放射能セシウムが福島県二本松市のある地域の米から多く検出されるのかなど、日頃の疑問にお答えします。また今後どのような食品から放射能が検出されるのか予想します。そして講演の後半ではみなさんからの質問をお受けします。

12. 22 (木)

大島 昭彦
大阪市立大学大学院 工学研究科・教授

★ 東日本大震災での液状化被害と 大阪地域の液状化危険度の予測

本年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉・茨城県の関東地方で砂地盤の液状化による甚大な災害が生じました。本講座では、まずこの液状化被害の状況を紹介し、その原因を考察します。次に、大阪地域を250m区画に分け、それぞれの区画の地盤性状を実データからモデル化し、東南海・南海地震を想定した液状化危険度を予測した結果を紹介します。同時に地下水位低下による液状化対策についても紹介します。

● 受講料無料・定員先着30名 ※事前にお申し込みの上ご参加ください

各日 18:30 — 20:00 (18:00開場)

お申し込みの際は、電話・FAX・メールにて、受講者氏名、ご連絡先(電話番号)、ご参加希望講座名をご連絡ください。

なお、定員に余裕がある場合は、当日会場での直接申し込みも受付させていただきます。

※電話でのお申し込み・お問い合わせは、月～金 11:00～21:00 土・日・祝 11:00～20:00



会場 淀屋橋 odona 2階 アイ・スポット
〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4-1-1

アクセス 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅 10番出口直結
京阪本線「淀屋橋」駅 3番出口から徒歩1分
地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅 5-A出口から徒歩6分
地下鉄堺筋線「北浜」駅 2番出口から徒歩8分

● お申し込み・お問い合わせ
アイ・スポット TEL / FAX : 06-4866-6803
E-Mail : i-spot@voice.ocn.ne.jp